

決算補足説明資料

2025年度 第2四半期 業績概要

注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2025年3月1日～2025年8月31日)

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算オンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

それでは、2025年度 上期の業績概要についてご説明いたします。

それでは1ページにお進みください。

➤ 2025年度 上期 実績

- ➔ **売上収益** … 前年同期比▲0.5%
 - ・新規受注を確実に売上につなげ、想定を上回る前年同期比横ばいの着地
- ➔ **営業利益** … 前年同期比+1.8%
 - ・モーションコントロールにおける付加価値改善や間接費の抑制などにより増益
- ➔ **税引前利益** … 前年同期比+3.2%
親会社の所有者に帰属する中間利益 … 前年同期比+2.2%
 - ・営業利益の増加により増益
- ➔ **第2四半期 受注** … 前年同期比+6%・前四半期比+5%
 - ・システムエンジニアリングを中心に前年同期比・前四半期比ともに増加

2025年度 通期 見通し

- ➔ **売上収益:5,150億円→5,250億円、営業利益:430億円→480億円**
 - ・米国関税政策により不透明な状況が継続しているものの、上期の実績や足元の需要環境などを考慮し、通期見通しを上方修正
 - ・想定為替レート（2025年9月1日～2026年2月28日）は前回計画から据え置き
 - ・25年度の配当予想は4月4日公表時から変更なし（一株当たり年間配当68円）

当決算におけるサマリーです。詳しくはこの後にご説明いたします。

それでは、5ページにお進みください。

1. 2025年度 上期 連結業績

- 2025年度 上期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2025年度 上期における取組み

2. 2025年度 通期 連結業績見通し

- 2025年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析
- 2025年度 下期における取組み

3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボドライブ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ PMモータ

など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット
- ・ 自律ロボット

など



システム エンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電気システム
- ・ 上下水道用電気計装システム

など



その他

- ・ 物流サービス

など

1. 2025年度 上期 連結業績

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・売上収益は、受注残の正常化を進めた前年同期に比べ、新規受注を確実に売上につなげた結果、ほぼ横ばいとなり想定を上回る着地
- ・営業利益は、モーションコントロールセグメントの付加価値改善・間接費の抑制などが寄与し増加

	2025年度	2024年度	前 年 同 期 比	
	上期 実績	上期 実績	増減額	増減率
売上収益	2,602億円	2,616億円	▲14億円	▲0.5%
営業利益	233億円	229億円	+4億円	+1.8%
税引前利益	252億円	244億円	+8億円	+3.2%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	182億円	179億円	+4億円	+2.2%

25年度 上期の実績です。

当期の経営環境は、地政学的リスクや米国の関税政策などにより、総じて不透明な状況が継続する中で、グローバルにおける半導体市場の需要は、AI関連の投資に集中する傾向が強まりました。その一方で、国内の電子部品市場に加え、中国・韓国の自動車市場における設備投資需要は堅調に推移しました。また、一般産業分野における自動化需要もグローバルで底堅く推移しました。

このような中、当社グループの業績について、売上収益は、受注残の正常化を進めた前年同期に比べ、新規受注を確実に売上につなげた結果、ほぼ横ばいとなり想定を上回る着地となりました。営業利益については、モーションコントロールセグメントにおける付加価値改善・間接費の抑制などが寄与し、前年同期に対し増加しました。

売上収益は前年同期比0.5%減の2,602億円、営業利益は1.8%増の233億円、税引前利益は3.2%増の252億円、中間利益は2.2%増の182億円です。

それでは、次の6ページにお進みください。

2025年度 上期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールは、受注残の正常化を進めた前年同期に比べ減収も、付加価値改善や間接費抑制により増益
- ・ ロボットは、中国・アジアの自動車市場における堅調な設備投資需要に支えられ増収も、当期における一時的な売上案件のミックスの影響によりわずかに減益
- ・ システムエンジニアリングは、鉄鋼プラント関連の販売拡大により増収増益

(単位：億円)	2025年度 上期		2024年度 上期		前 年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売 上 収 益	2,602		2,616		▲14	▲0.5%
モーションコントロール	1,128		1,194		▲66	▲5.5%
ロボット	1,192		1,121		+71	+6.4%
システムエンジニアリング	187		186		+1	+0.5%
その他	95		115		▲20	▲17.4%
営 業 利 益	233	9.0%	229	8.8%	+4	+1.8%
モーションコントロール	120	10.7%	110	9.2%	+10	+9.2%
ロボット	105	8.8%	106	9.5%	▲1	▲0.5%
システムエンジニアリング	19	10.4%	19	10.1%	+1	+3.7%
その他	9	9.9%	8	7.3%	+1	+12.5%
消去または全社	▲21	-	▲14	-	▲7	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、受注残の正常化を進めた前年同期に比べ減収となりましたが、付加価値改善や間接費抑制により増益となりました。

ロボットは、堅調な設備投資需要に支えられ増収となりましたが、利益面においては当期における一時的な売上案件のミックスの影響により、わずかに減益となりました。

システムエンジニアリングは、鉄鋼プラント関連の販売拡大により、増収増益となっております。

なお、“売上収益における為替の影響”は全体でマイナス81億円でした。

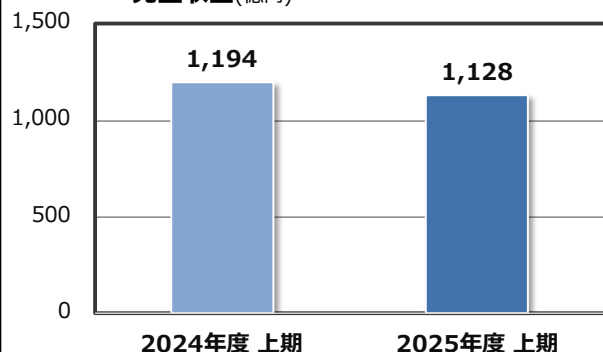
内訳として、モーションコントロールでマイナス39億円、
ロボットでマイナス41億円、
システムエンジニアリングでマイナス1億円、
その他でマイナス1億円です。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の7ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



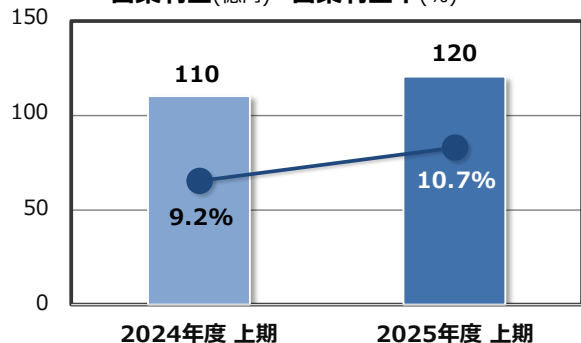
【売上収益】

- ・ACサーボは米州・アジアの半導体市場向けの販売が減少も日本の電子部品市場向け販売が大きく増加し微増
- ・インバータは米国の太陽光発電用パワーコンディショナや空調用途向けの販売が堅調も、オイル・ガス用途向けの販売減少により減収

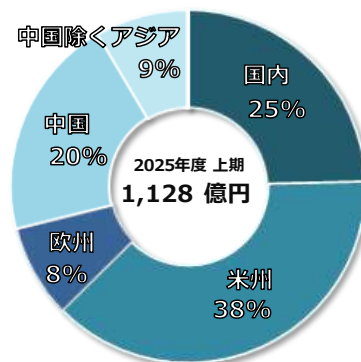
【営業利益】

- ・付加価値改善や間接費抑制をさらに進めたことで、増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比5.5%減の1,128億円、
営業利益は9.2%増の120億円となりました。

なお、25年度 上期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、
ACサーボが50%、インバータが50%です。

ACサーボは、米州・アジアの半導体市場向けの販売が減少したものの、
日本の電子部品市場向けを中心に販売が大きく増加したため、売上収益は微増となりました。

インバータは、米国において太陽光発電用パワーコンディショナや空調用途向けの販売が
堅調に推移しましたが、オイル・ガス用途向けの販売減少により、減収となりました。

これらの結果、モーションコントロール全体の売上収益は前年同期比で減少しました。

利益面については、付加価値の改善や間接費の抑制をさらに進めたことで増益となり、
営業利益率は前年同期から1.5ポイント改善の10.7%となりました。

ご参考として、25年度 上期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

ACサーボは、

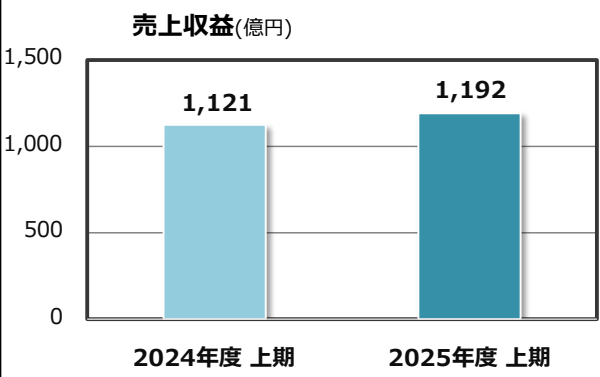
国内30%、米州26%、欧州9%、中国27%、中国除くアジア8%です。

インバータは、

国内19%、米州50%、欧州8%、中国14%、中国除くアジア9%です。

それでは、次の8ページにお進みください。

主要事業の概要 ロボット

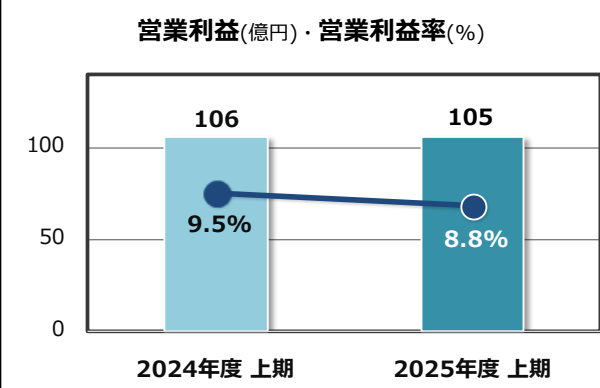


【売上収益】

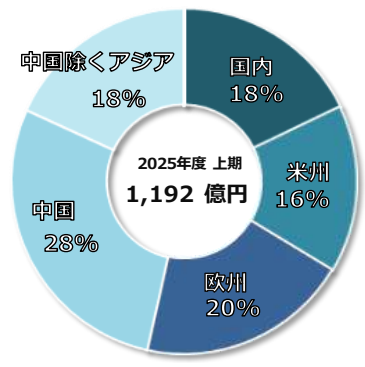
- 自動車市場において日本・米州での設備投資計画見直しの影響を受けるも、中国・アジアの堅調な需要に支えられ増加

【営業利益】

- 当期における一時的な売上案件のミックスの影響によりわずかに減少



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比6.4%増の1,192億円、
営業利益は、0.5%減の105億円となりました。

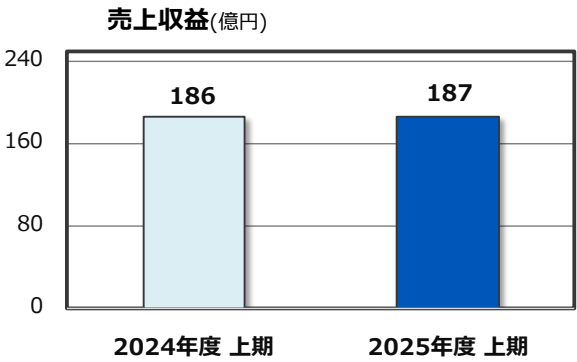
自動車市場において、日本・米州での設備投資計画見直しの影響を受けましたが、
中国・アジアでは堅調な需要に支えられ、売上収益は前年同期比で増加しました。

営業利益については、当期における一時的な売上案件のミックスの影響により
わずかに減少し、営業利益率は8.8%となりました。

なお、ロボットの売上収益は、上期としては過去最高を更新しました。

それでは、次の9ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

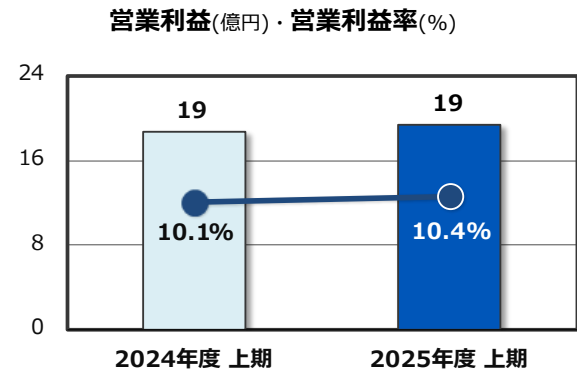


【売上収益】

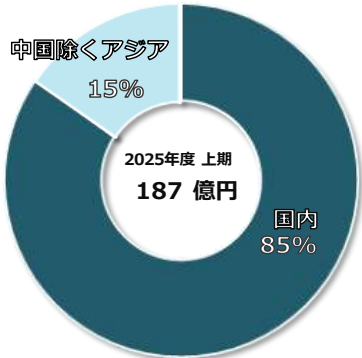
- 上下水道用電気システムや港湾クレーン関連の販売が減少も、鉄鋼プラント関連の販売が拡大し微増

【営業利益】

- 鉄鋼プラント関連の販売増加による採算性改善や、売上増加に伴う利益増の影響により営業利益率が改善



所在地別売上収益構成比



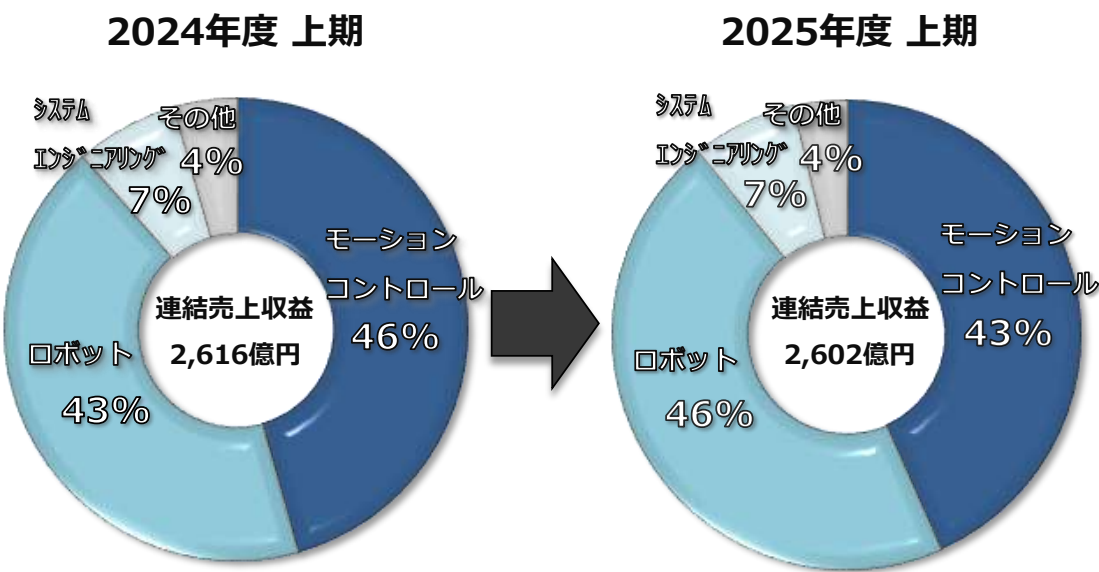
システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前年同期比0.5%増の187億円、
営業利益は、3.7%増の19億円となりました。

上下水道用電気システムおよび港湾クレーン関連の販売が減少しましたが、
鉄鋼プラント関連の販売が拡大したことから、売上収益は前年同期比で微増となりました。

利益面については、鉄鋼プラント関連の販売増加による採算性の改善や、
売上増加に伴う利益増の影響により、営業利益率は改善し、10.4%となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期に対し、モーションコントロールが3ポイント減少した一方、ロボットが3ポイント増加しました。

これらの結果、ロボットの構成比がモーションコントロールをはじめて超え46%に、モーションコントロールの構成比は43%となりました。

また、システムエンジニアリングの構成比は変わらず7%となっております。

それでは、次の11ページにお進みください。

・日本・中国・アジアが増収の一方、欧米が減収となり全体としてほぼ横ばい

(単位：億円)	2025年度	2024年度	前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
売上収益	2,602	2,616	▲14	▲0.5%
国内	730	715	+16	+2.2%
海外	1,872	1,901	▲30	▲1.6%
米州	619	659	▲40	▲6.0%
欧州	332	348	▲16	▲4.5%
中国	579	564	+15	+2.6%
中国除くアジア	341	330	+11	+3.4%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。
日本・中国・中国を除くアジアが増収となった一方で、米州・欧州が減収となっています。

地域別の状況ですが、
国内については、電子部品市場の中国向け需要が顕在化し、鉄鋼プラント関連の需要は計画通り好調に推移しました。

米州では、半導体や自動車市場に加え、
原油価格下落の影響を受けたオイル・ガス関連市場は、設備投資動向に不透明感が継続する中で計画の見直しが起こり、軟調に推移しました。
その一方で、データセンタ向けを含む空調関連などの需要は、堅調に推移しました。

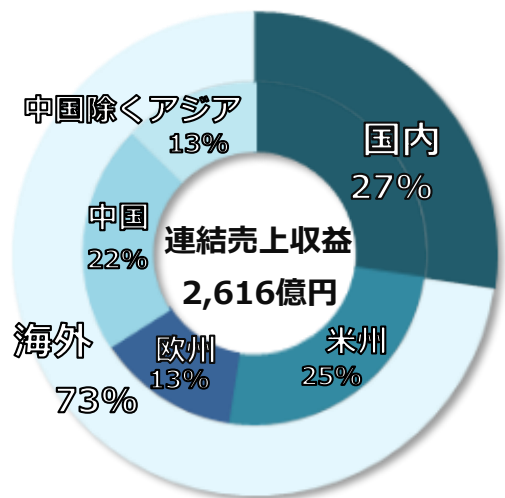
欧州については、経済の回復基調が見受けられ、自動車市場においては潜在的な需要があるものの、設備投資は伸び悩みました。

中国では、自動車市場における堅調な設備投資需要が継続し、一般産業分野における自動化需要も底堅く推移しました。また、製造業全般のグローバル展開に向けた投資の機運は高まりつつあり、需要は堅調に推移しました。

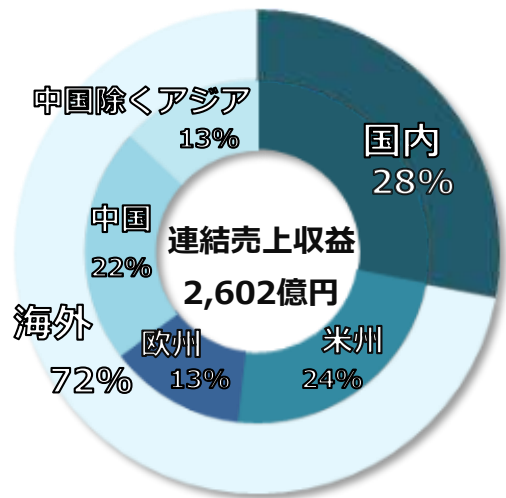
中国除くアジアについては、韓国で半導体関連需要の回復が遅れている一方、自動車関連の需要は堅調に推移しました。
また、インドなどにおいては、一般産業分野における自動化需要が堅調に推移しました。

それでは、次の12ページにお進みください。

2024年度 上期



2025年度 上期



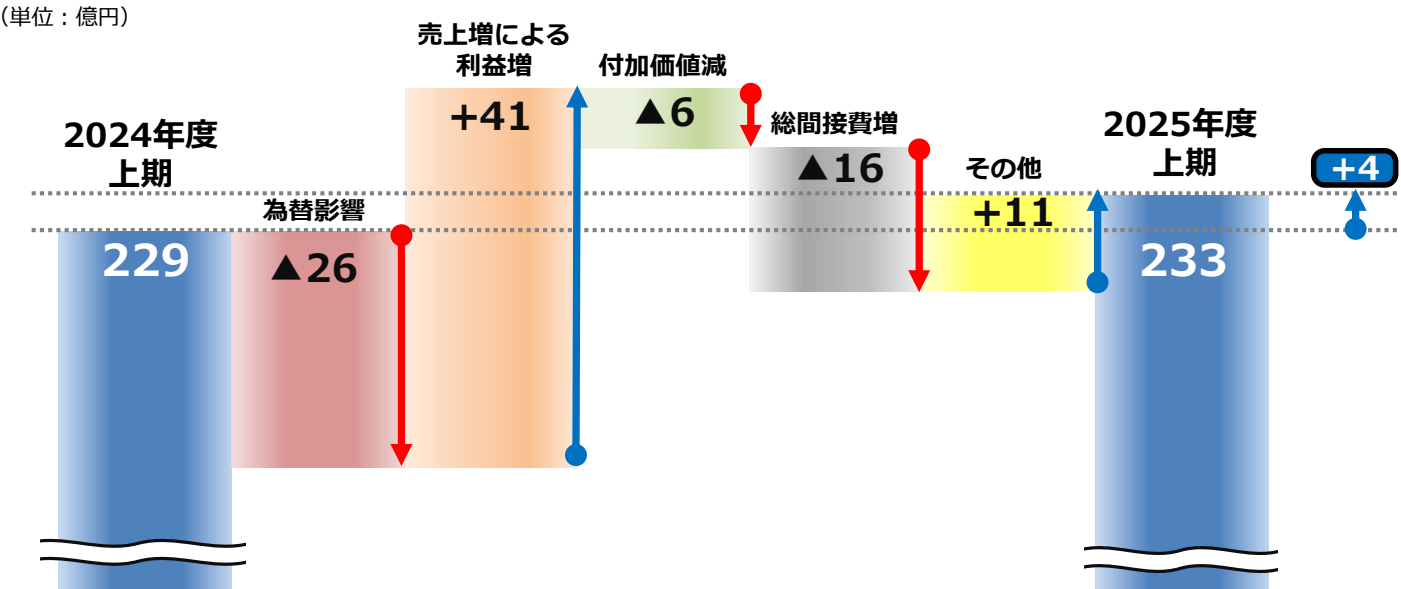
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益 構成比は、国内が前年同期から1ポイント増加し28%に、海外は1ポイント減少し72%になりました。

海外の内訳として、米州が1ポイント減少しましたが、そのほかの地域である欧州・中国・中国を除くアジアについては、横ばいで推移しました。

それでは、次の13ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2024年度上期 → 2025年度上期）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	▲ 12	▲ 15	+ 26	+ 7	+ 4
ロボット	▲ 14	+ 57	▲ 34	▲ 13	+ 3
システムエンジニアリング	▲ 0	+ 1	+ 1	▲ 2	+ 0
その他	▲ 0	▲ 2	+ 0	▲ 8	+ 4

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の229億円から4億円増加し、233億円となりました。

為替による影響は、各主要通貨が円高に推移したことから、マイナス26億円。

売上増による利益増については、モーションコントロールが減少したものの、販売量が増加したロボットがこれを補い、全体ではプラス41億円。

付加価値の減少はマイナス6億円。関税コストが9億円発生しましたが、そのほとんどを価格転嫁によって補填し、マイナス影響は1億円でした。また、内製化効果によるプラス影響が4億円となった一方で、棚卸評価損が3億円マイナスに影響しました。

総間接費の増加による影響はマイナス16億円。欧州などでのリストラ効果や、賞与の見直しなどがプラスに影響しましたが、賃金の改善による労務費の増加や、情報処理費などの投資コストの増加がマイナスに影響しました。

最後の「その他」はプラス11億円。中国子会社の一部移転に伴う一時的な利益が発生したほか、中国における補助金収入などがありました。

それでは、次の14ページにお進みください。

“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

開発力の強化

- ヒューマノイドロボット領域の知見を生かした製品開発に向け
東京ロボティクス(株) の株式を100%取得 (2025年7月1日)

生産力の強化

- 米国にて本社・技術開発拠点・産業用ロボットの生産工場等を
集約した新キャンパス設立を発表 (2025年6月16日)
- サーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場が竣工
(2025年7月8日)

販売力の強化

- データセンタの冷却システム向けにCDU※の小型化・高効率化に
貢献するインバータの拡販

メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- アステラス製薬とバイオ向け双腕ロボット「まほろ」を活用した
細胞医療製品の製造に関する合併会社の設立について契約締結
(2025年3月5日)



米国 新キャンパス内の工場



バイオメディカル向け
双腕ロボット「まほろ」

※Coolant Distribution Unit (冷水分配装置)の略称

上期の取組みです。

開発面では、AIロボティクスの領域を拡大させていく中、
ヒューマノイドロボットにおけるアクチュエーターの開発なども視野に入れて、
東京ロボティクスの株式を100%取得しました。

生産面では、今年6月に、米国における本社・技術開発・ロボット生産工場などを集約する
新キャンパス構想を発表しました。

新キャンパス内では、既にインバータの生産を開始するなど、米国における
事業遂行力を格段に向上させていきます。

また、北九州の本社地区においては、サーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場が
7月に竣工しています。

販売面では、データセンタの冷却システム向けに、インバータの拡販を進めています。

メカトロニクス応用領域の拡大については、
アステラス製薬様と合併会社を設立する契約を締結し、細胞医療製品の製造において、
当社のバイオ向け双腕ロボット「まほろ」を活用したソリューションの展開を加速します。

16ページへお進みください。

2. 2025年度 通期 連結業績見通し

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・ 米国関税政策の影響等により不透明な状況が継続しているものの、上期の実績や足元の需要環境などを考慮し、通期見通し（2025年7月4日公表）を上方修正

	2025年度 見通し	2024年度 実績	前年同期比		2025年度 前回見通し※
			増減額	増減率	
売上収益	5,250億円	5,377億円	▲127億円	▲2.4%	5,150億円
営業利益	480億円	502億円	▲22億円	▲4.3%	430億円
税引前利益	505億円	785億円	▲280億円	▲35.6%	455億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	370億円	570億円	▲200億円	▲35.1%	330億円

※2025年7月4日 FY25 1Q決算発表時

2025年度 通期の業績見通しです。

米国関税政策の影響などにより不透明な状況が継続しているものの、
上期の実績や足元の需要環境などを考慮し、
2025年7月4日に公表しました通期見通しを上方修正いたします。

売上収益は5,150億円から5,250億円に、
営業利益は430億円から480億円に、
税引前利益は455億円から505億円に、
当期利益は330億円から370億円に、
それぞれ修正いたします。

米国の関税政策による直接的なコスト増加影響については
前回見通し時に通期でマイナス65億円と想定していましたが、
税率の変更などにより見直しを行い、マイナス34億円と見積もります。
このマイナス影響はサーチャージによる価格転嫁によってカバーする計画です。

なお、鉄鋼・アルミニウム製品に対する追加関税措置については、
その影響度を現在精査中です。いずれにしましても、この措置によって発生する追加コストは
サーチャージによって対応する予定です。

また、25年下期における平均為替レートについては、
4月4日に公表しました想定レートから変更なく、
ドルは145円、ユーロは160円、元は20円、韓国ウォンは0.11円といたします。

続いて、次の17ページにお進みください。

2025年度 通期 見通し（セグメント別）

(単位：億円)	2025年度		2024年度		前 年 同 期 比		2025年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し※	利益率
売 上 収 益	5,250		5,377		▲127	▲2.4%	5,150	
モーションコントロール	2,316		2,388		▲72	▲3.0%	2,265	
ロボット	2,361		2,374		▲13	▲0.6%	2,327	
システムエンジニアリング	386		384		+2	+0.6%	371	
その他	187		232		▲45	▲19.3%	187	
営 業 利 益	480	9.1%	502	9.3%	▲22	▲4.3%	430	8.3%
モーションコントロール	255	11.0%	230	9.6%	+25	+10.8%	214	9.5%
ロボット	217	9.2%	238	10.0%	▲20	▲8.5%	213	9.2%
システムエンジニアリング	40	10.5%	46	12.0%	▲6	▲12.1%	40	10.8%
その他	17	9.0%	16	6.9%	+1	+5.3%	10	5.3%
消去または全社	▲49	-	▲28	-	▲21	-	▲48	-

※2025年7月4日 FY25 1Q決算発表時

セグメント別の通期見通しです。

モーションコントロールの売上収益は、前回予想の2,265億円から2,316億円に、
営業利益は、214億円から255億円に。

ロボットの売上収益は、2,327億円から2,361億円に、
営業利益は、213億円から217億円に。

システムエンジニアリングの売上収益は、371億円から386億円に、
それぞれ修正します。

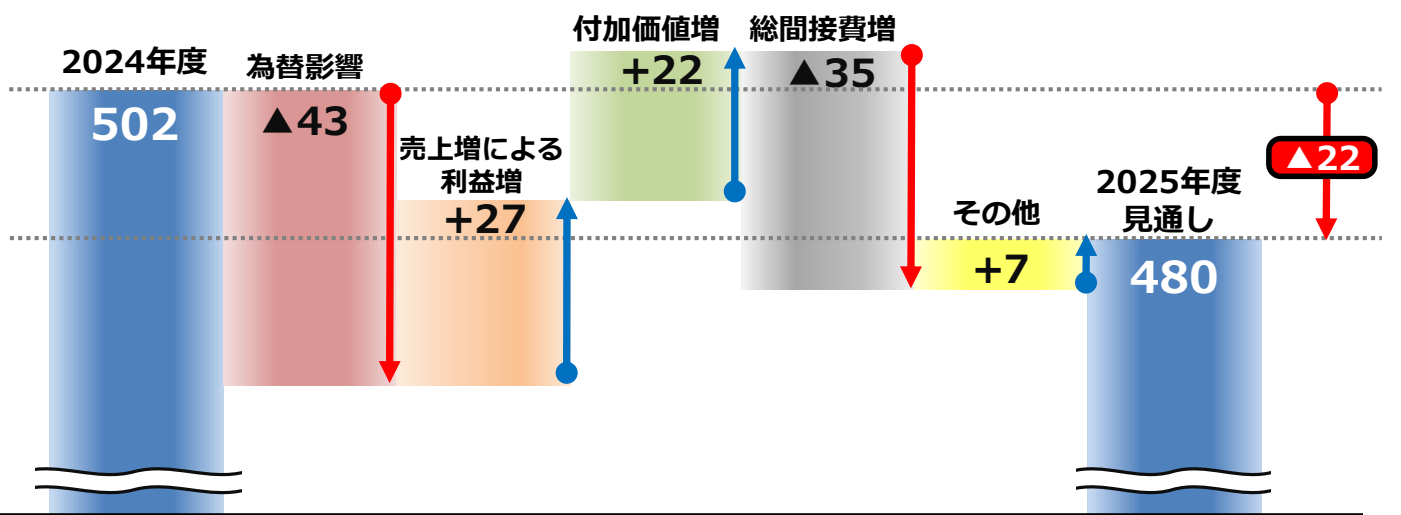
また、システムエンジニアリングの営業利益は、前回見通しから変更なく40億円となる想定です。

なお、“売上収益における為替の影響”は全社でマイナス147億円と想定します。
内訳として、モーションコントロールでマイナス74億円、ロボットでマイナス70億円、
システムエンジニアリングでマイナス2億円、その他でマイナス1億円です。

それでは、次の18ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2024年度 → 2025年度見通し）

(単位：億円)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	▲ 22	+ 1	+ 43	▲ 1	+ 3
ロボット	▲ 21	+ 28	▲ 16	▲ 11	+ 0
システムエンジニアリング	▲ 0	+ 2	▲ 5	▲ 2	+ 0
その他	▲ 0	▲ 4	+ 0	▲ 20	+ 4

通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2025年度の営業利益は、前年度の502億円から22億円減少の480億円を計画します。

為替による影響は、引き続き円高の影響を想定しマイナス43億円。

売上増による利益増は、ロボットを中心にプラス27億円。

付加価値の増加はプラス22億円。

主な内訳として、モーションコントロールの新製品切り替え効果をプラス4億円、モーションコントロールとロボットにおける部品の内製化効果をプラス6億円と想定するほか、前年度に発生した棚卸評価損をなくすことでプラス21億円となる計画です。

総間接費の増加による影響は、マイナス35億円。

リストラ効果に加え、活動費の抑制を徹底する一方、賃金改善による労務費の増加や情報処理費などの投資コストの増加を織り込みます。

最後の「その他」はプラス7億円。

前期に発生した欧州事業再編に係るコストが無くなる影響をプラスに織り込むものの、中国における構造改革費用や、前期に発生した土地の売却益の剥落によるマイナス影響等を含めています。

それでは、次の19ページにお進みください。

“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

開発力の強化

- 「MOTOMAN NEXT」導入事例の横展開加速
- ヒューマノイドロボットに適したアクチュエータの開発推進

生産力の強化

- ロボット第5工場の本格稼働(2026年3月予定)に向けた分散セルや「MOTOMAN NEXT」の適用などの準備を加速

販売力の強化

- 国際ロボット展(2025年12月)を活用したAIロボティクス領域拡大への訴求
- インド市場のインフラ新設需要を捉えたインバータの拡販
- AIチップをはじめとする半導体の中工程市場におけるACサーボ・ロボットの受注拡大

メカトロニクス応用領域の事業拡大による

サステナブルな社会実現への貢献

- きゅうり葉かき・収穫ロボットの製品化と、MOTOMAN NEXTを活用したいちご選果ロボットの製品化に向けた開発加速
- 細胞医療領域において、アステラス製薬との協業を通じ人手作業を均質化するプラットフォームビジネスの立ち上げ



ロボット第5工場の外観



ゆめファーム全農SAGAにて稼働中の
きゅうり葉かき・収穫ロボット

25年度下期における取組みです。

開発面では、「MOTOMAN NEXT」の導入事例を拡大し、横展開を加速させます。
また、東京ロボティクスの知見を生かし、新しいアクチュエータの開発を進めます。

生産面では、ロボット第5工場の本格稼働に向け、分散セルや「MOTOMAN NEXT」の現場への適用を進めます。

販売面では、12月に開催される国際ロボット展を活用し、AIロボティクス領域への拡大を訴求します。

また、インド市場にて拡大するインフラ新設需要を捉えたインバータの拡販に取り組むとともに、AIチップなどの半導体の中工程市場に対するアプローチを強化し、ACサーボ、ロボットの受注を拡大します。

メカトロニクス応用領域においては、「MOTOMAN NEXT」を活用しながら、きゅうりの葉かき・収穫のロボットと、いちご選果ロボットの製品化を進めます。

また、細胞医療領域において、人手作業を均質化するプラットフォームビジネスの立ち上げを、アステラス製薬様と共に加速します。

3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2023年度（実績）	2024年度（実績）	2025年度（計画）
設備投資額	378.6	406.7	550.0
減価償却費	208.0	208.0	220.0
研究開発投資	212.5	237.7	250.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2023年度（実績）			2024年度（実績）			2025年度（想定）		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
対 米ドル	138.8	147.9	143.2	153.7	151.6	152.7	146.2	145.0	145.6
対 ユーロ	151.0	159.3	155.1	166.6	161.3	164.0	166.0	160.0	163.0
対 元	19.61	20.44	20.02	21.23	21.01	21.12	20.26	20.00	20.13
対 ウォン	0.106	0.112	0.109	0.113	0.108	0.111	0.104	0.110	0.107

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安（2025年度_通期）	
	売上収益	営業利益
米ドル	12.7	3.1
ユーロ	6.5	1.0
元	11.2	3.0
ウォン	3.9	1.3

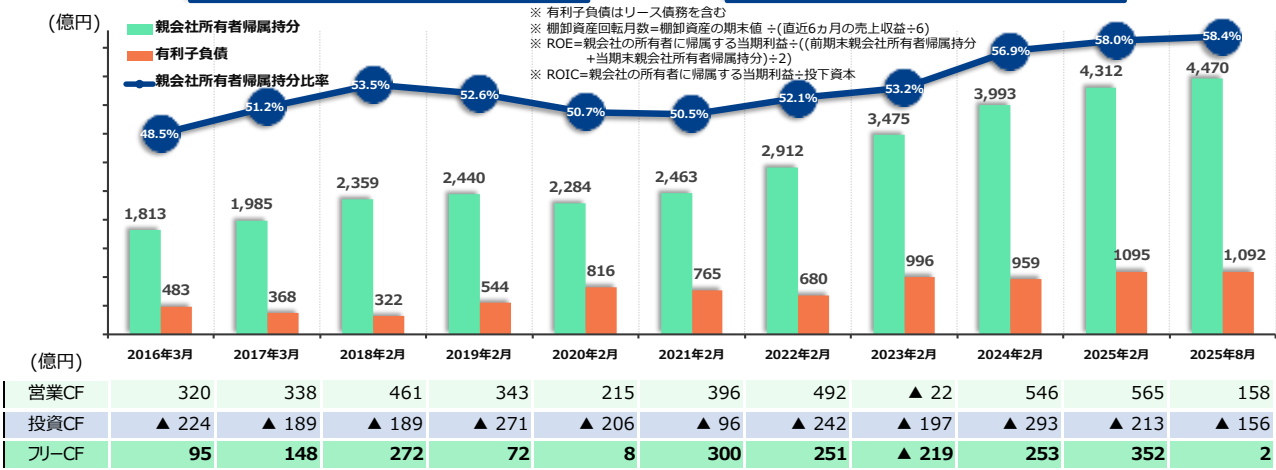
B / S 構造の推移

2025年2月28日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 58.0%
- 親会社所有者帰属持分 4,312億円
- 有利子負債 1,095億円
(現金及び現金同等物) 590億円
- D/Eレシオ 0.25
(ネットD/Eレシオ) 0.12
- 棚卸資産 2,063億円
(回転月数) (4.5ヶ月)
- ROE 13.7%
- ROIC 12.2%

2025年8月31日時点

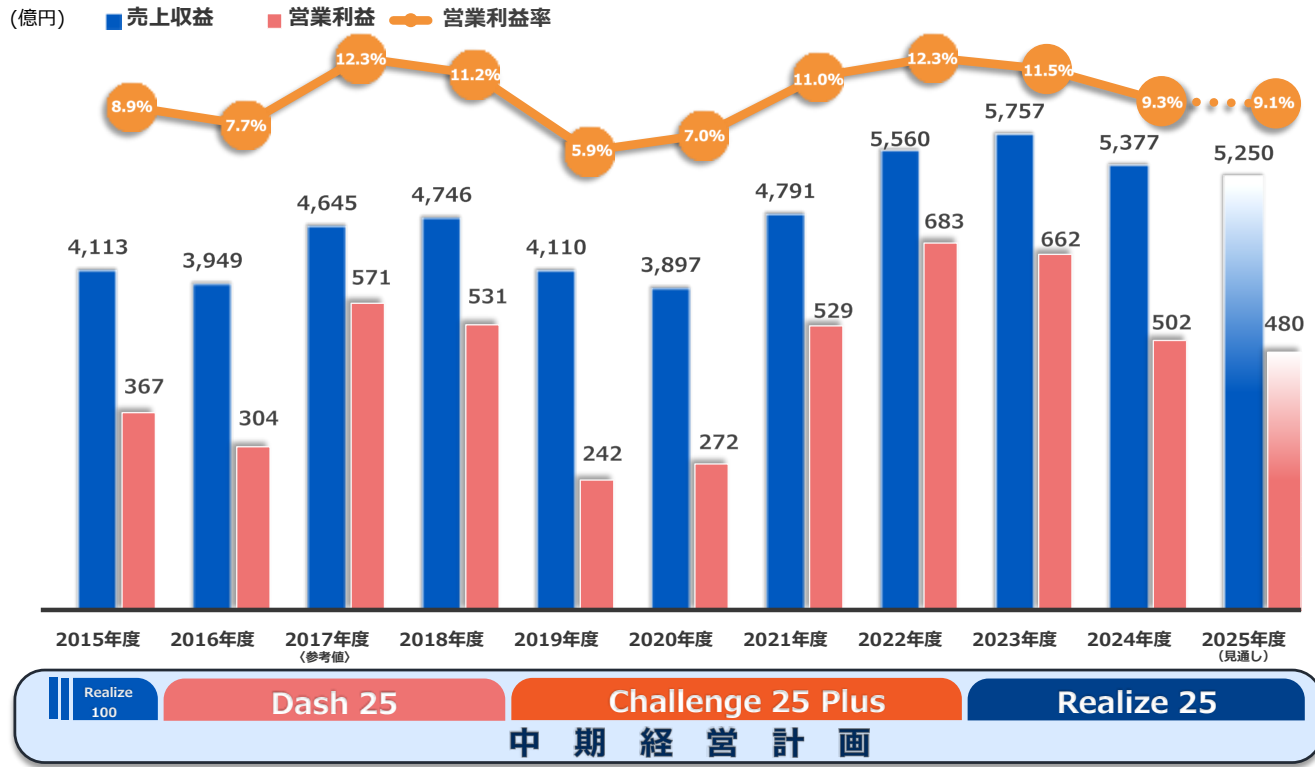
- 親会社所有者帰属持分比率 58.4%
- 親会社所有者帰属持分 4,470億円
- 有利子負債 1,092億円
(現金及び現金同等物) 483億円
- D/Eレシオ 0.24
(ネットD/Eレシオ) 0.14
- 棚卸資産 2,133億円
(回転月数) (4.9ヶ月)



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

<スキップ>

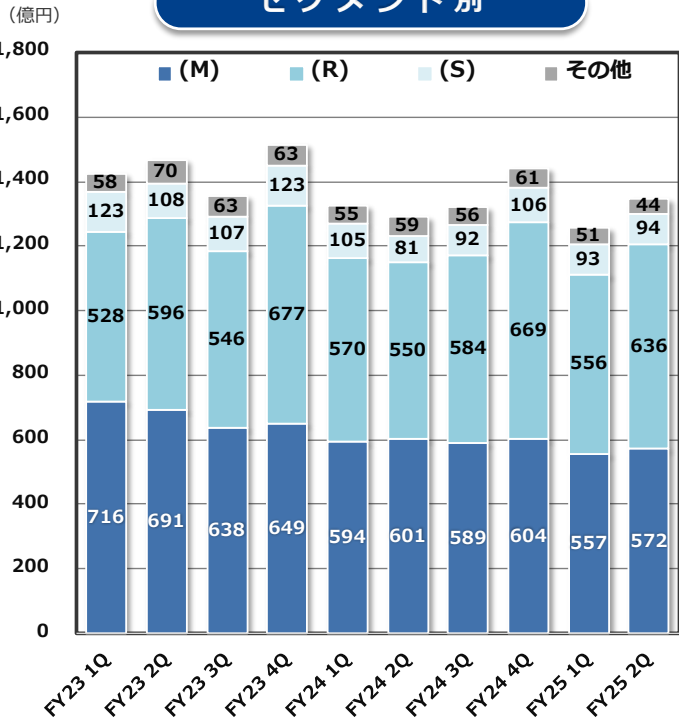
売上収益・営業利益推移（2015年度～2025年度見通し）



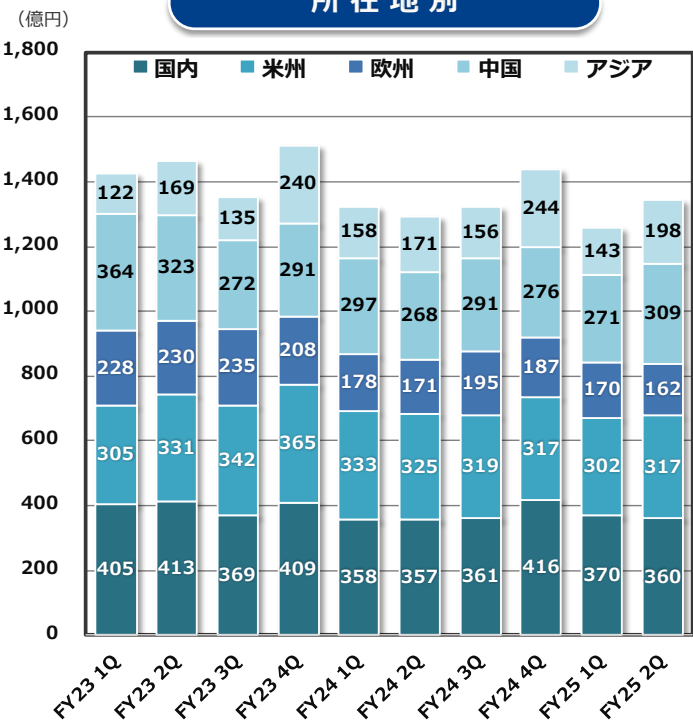
[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期売上収益推移

セグメント別



所在地別

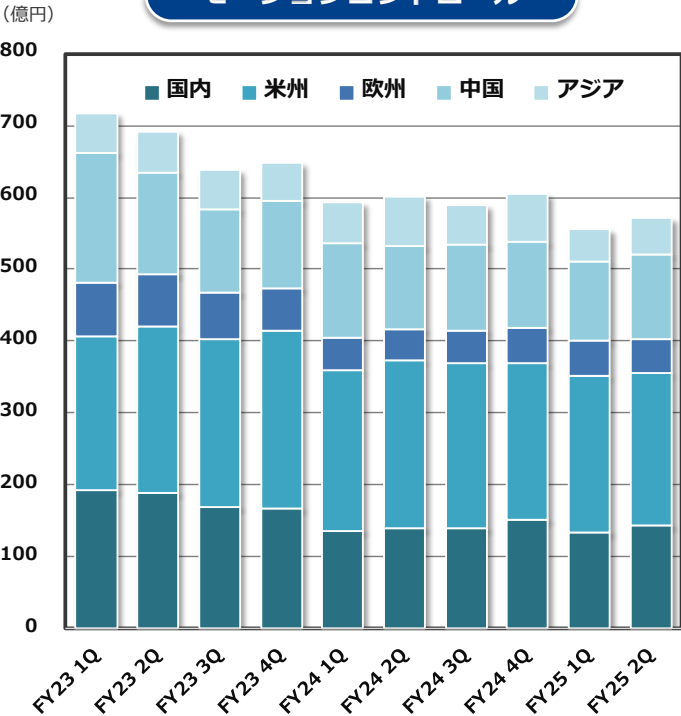


[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

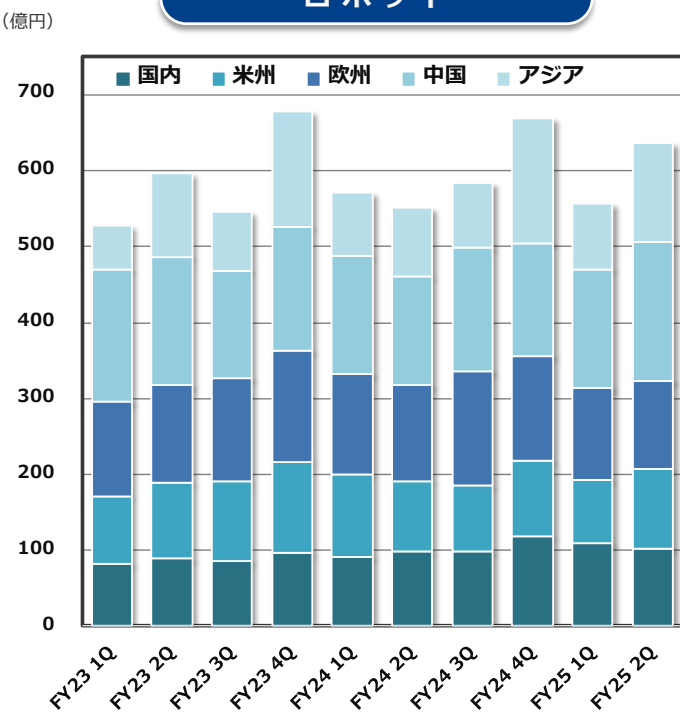
<スキップ>

四半期売上収益推移

モーションコントロール

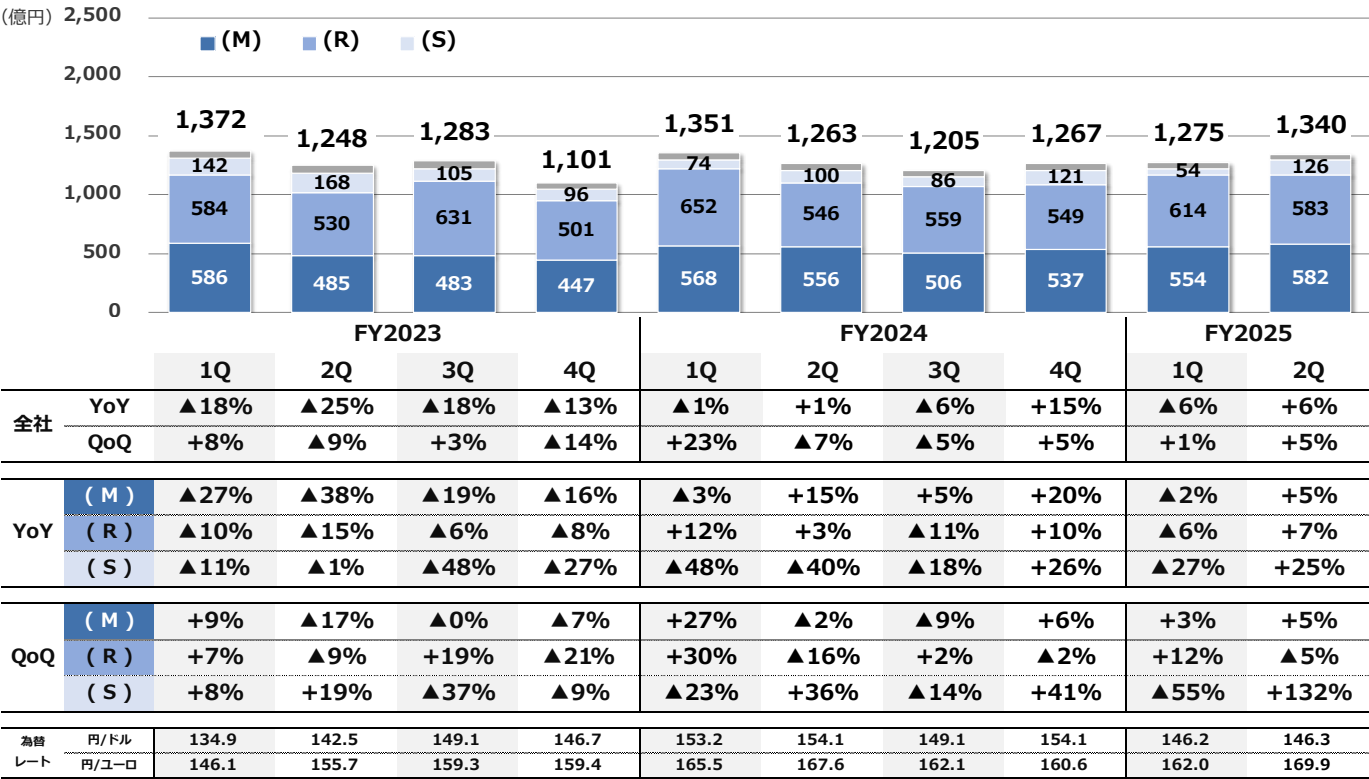


ロボット



<スキップ>

四半期受注推移（セグメント別） ※為替は期中平均レートを使用



[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、
2025年度 第2四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

ACサーボのYoYは全体で▲2%です。
内訳は、国内+39%、米州▲37%、欧州+17%、中国+3%、その他アジア▲27%です。

QoQは全体で+2%です。
内訳は、国内+18%、米州▲18%、欧州▲6%、中国▲4%、その他アジア+32%です。

インバータのYoYは全体で+13%です。
内訳は、国内+19%、米州+49%、欧州+17%、中国▲36%、その他アジア▲25%です。

QoQは全体で+9%です。
内訳は、国内+10%、米州+19%、欧州▲32%、中国▲8%、その他アジア+17%です。

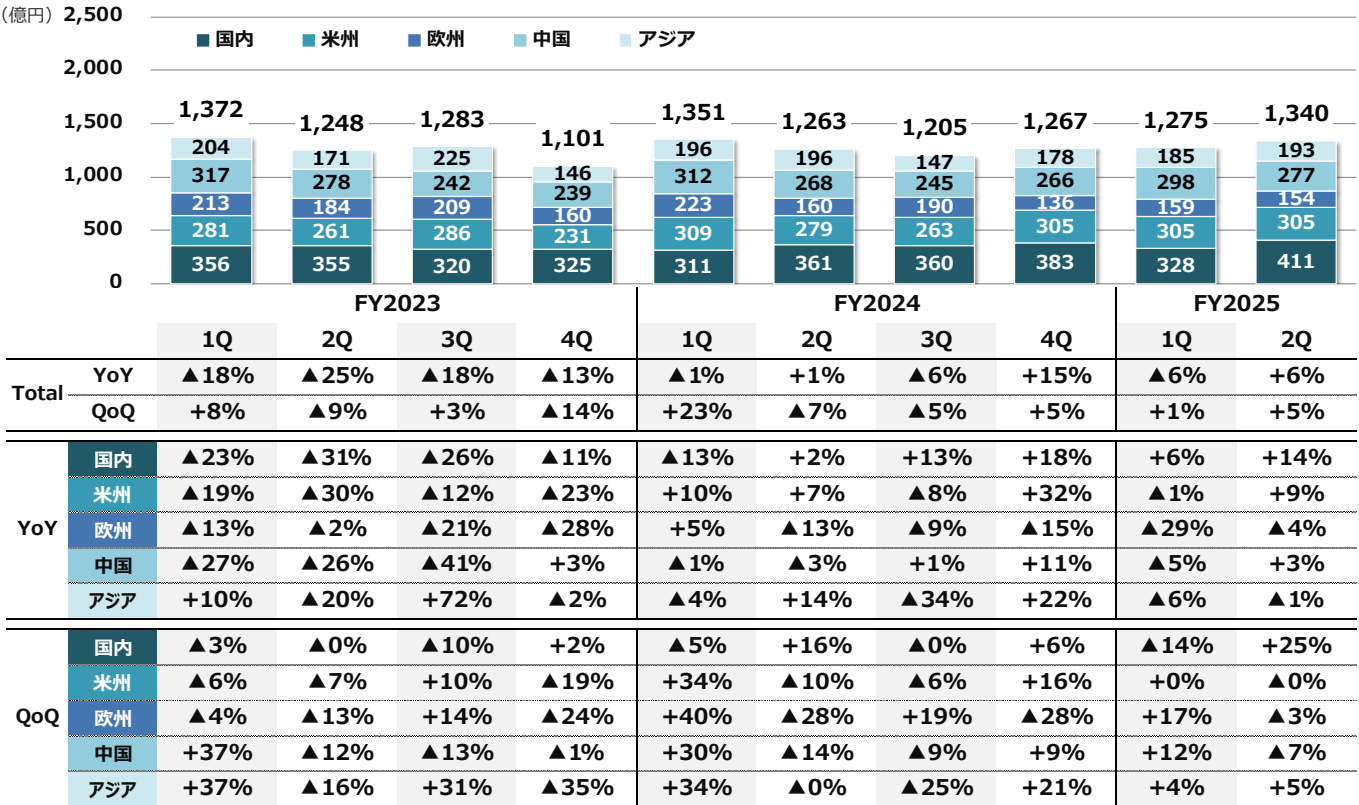
ロボットのYoYは全体で+7%です。
内訳は、国内▲6%、米州+9%、欧州▲10%、中国+21%、その他アジア+20%です。

QoQは全体で▲5%です。
内訳として、国内+5%、米州▲12%、欧州+4%、中国▲9%、その他アジア▲9%です。

それでは、次の27ページにお進みください。

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用



所在地別の受注推移です。
数字はご覧の通りです。

なお、最後になりますが、配当につきましては、期初発表時の内容から変更はありません。
中間配当は1株につき34円、期末配当についても1株につき34円を予定しています。
これにより、年間の配当は、前年度から据え置きとなる68円を予定しています。

以上をもちまして、2025年度 第2四半期の業績概要の説明を終わります。
ご清聴いただき、ありがとうございました。

YASKAWA

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>